

第 38 回通常総会

開催日 : 平成 25 年 5 月 24 日 (金)

会 場 : JICA 市ヶ谷

一般社団法人 協力隊を育てる会

平成 24 年度事業報告

(平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで)

《平成 24 年度を振り返って》

一般競争入札に伴う受託事業の大幅な減少を受け、厳しい財政状況の中で迎えた平成 24 年度ですが、事務局のスリム化と事業の効率化を進めながら、育てる会としての運動を停滞させることがないよう様々な事業に取り組んで参りました。

① 全国での組織化

近畿圏で精力的な組織活動を行った結果、和歌山県、奈良県、京都府における来年度中の新組織設立に向けた準備が進み、全県での育てる会ネットワークの完成まであと一步となりました。

② 支援者拡大に向けての取り組み

これまで交流がなかった異業種の方々との新たな関係構築を行うとともに、協力隊事業への支援を働きかけました。アフラック日本の創業者である大竹美喜氏を招いた講演会の実施や、教育関係者や企業などを対象にして、参加者のニーズに合わせた企画で駒ヶ根見学ツアーやスタディーツアーを実施した結果、新たな支援者層を発掘することができました。

③ 国内における帰国隊員の社会貢献をアピール

日本の地域おこしに取り組む帰国隊員の報告会を開催し、また富山県で開催した開発教育全国集会においても地域で活躍する帰国隊員を紹介しました。また、2年目を迎えた東日本大震災被災地支援の経験を経て、帰国隊員による震災支援の記録集を企画するなど、協力隊支援が日本社会の活性化にもつながるというメッセージを発信しました。

④ 財政基盤確立のための新たな動き

平成 26 年度までの 3 か年を重点期間と位置づけ、収益性という観点で事業を見直し、一般競争入札に参加して新たな事業を受託するなど、自立した組織として財政確立を目指しました。また各県組織と問題意識を共有し、新規事業に関する提案や意見を求めるためにブロック会議を開催し、新たな視点を取り込んだ事業展開を進めました。

長きにわたる JICA との相互補完関係も変化し、真に自立した組織として協力隊事業を支えていくことができるのか改めて問われた年になりました。

事務所も新たな場所に移転し、一般社団法人としての手続きも無事終了して再出発を始めた当会に、皆様のさらなるご理解と変わらぬご支援をお願い申し上げます。

<重点活動>

協力隊事業の理解を深め、支援の輪を広げる活動

1. 全国 47 都道府県の組織化とともに既存組織との連携強化を図る活動

(1) 全国 47 都道府県の組織化

未組織県である和歌山県、奈良県、京都府、静岡県、神奈川県の 5 府県に対し、組織化の働きかけを行った。

①和歌山県

【設立準備会の発足】

開催日 : 8 月 21 日 (火)

場 所 : ホテルグランヴィア和歌山

参加者 : 11 名

内 容 : 檜畑直尚氏 (公益財団法人和歌山県国際交流協会理事長、元日本 JC 会頭) を会長、筒井満氏 (公益財団法人和歌山県国際交流協会専務理事) を事務局長とし、年度内設立を目指すことで確認

【設立発起人会の開催】

開催日 : 2 月 12 日 (火)

場 所 : 和歌山ビッグ愛 公益財団法人和歌山県国際交流協会セミナー室

参加者 : 17 名

内 容 : 設立趣意、会則、事業・予算計画、役員構成等について確認、設立総会は 4 月 9 日開催で決定

②京都府

【協力依頼】

実施日 : 8 月 20 日 (月)

場 所 : 国立京都国際会館

内 容 : 木下博夫氏 (元京都市助役、国立京都国際会館館長) に協力依頼

実施日 : 9 月 22 日 (土)

場 所 : 京都府庁

内 容 : 京都府庁国際課、青少年課と設立に向けた意見交換会

実施日 : 11 月 29 日 (木)、1 月 20 日 (日)

場 所 : 京都市内

内 容 : 佐竹力総氏 (株式会社美濃吉代表取締役社長、元京都 JC 理事長) に協力依頼

③奈良県

【協力依頼】

実施日 : 8月22日(水)

場 所 : 奈良県庁

内 容 : 江南政治氏(奈良県健康福祉部長)に協力依頼

実施日 : 9月21日(金)

場 所 : 奈良県庁

内 容 : 奈良県国際観光課と設立に向けた意見交換会を開催

乾昌弘氏(株式会社明新社代表取締役社長、元奈良 JC 理事長)に協力依頼

阪口博明(前奈良県青年海外協力協会会長)に協力依頼

【設立懇談会の開催】

実施日 : 11月28日(水)

場 所 : 奈良市内

参加者 : 9名

内 容 : 乾昌弘氏(株式会社明新社代表取締役社長、元奈良 JC 理事長)を会長、安曾田

眞由美氏(同社総務課長)を事務局長とし、事務局を同社内に設置するほか、7名の役員体制が内定

【事務連絡会】

実施日 : 1月18日(金)

場 所 : 奈良市内

内 容 : 事務局担当等と設立に向けたロードマップ確認、今夏設立を目指すことを確認

④静岡県

【協力依頼】

実施日 : 5月30日(水)

場 所 : 静岡県庁

内 容 : 静岡県地域外交課に協力を依頼

実施日 : 2月17日(日)

場 所 : 静岡市内

内 容 : 静岡県 JICA ボランティア家族連絡会に参加、OB 会と留守家族に協力依頼

(2) ブロック懇談会の開催

全国育てる会の意見交換の場として、以下のとおりブロック懇談会を開催した。

①東海・北信越等ブロック懇談会(開発教育全国集会 in 富山と併催)

開催日 : 7月1日(日)

場 所 : 富山国際学園地域交流センター

テーマ : 「地域の活性化における育てる会の役割」

出席県 : 富山県、福井県、石川県、愛知県、岐阜県、三重県、新潟県、青森県、兵庫県、
社団 (東京)

参加者 : 24 名

②全国育てる会ブロック懇談会の開催

【関東・甲信越ブロック懇談会】

開催日 : 1月27日 (日)

場 所 : 新横浜グレイスホテル

テーマ : 新規事業の取り組みについて (施設見学含む)

出席県 : 栃木県、茨城県、長野県、駒ヶ根市、千葉県、群馬県、社団 (東京)

参加者 : 16 名

【東海・北陸・近畿ブロック懇談会】

開催日 : 2月6日 (水)

場 所 : ブライドスクウェア美翔苑

テーマ : 新規事業の取り組みについて (施設見学含む)

出席県 : 愛知県、岐阜県、富山県、石川県、福井県、三重県、滋賀県、兵庫県、
社団 (東京)

参加者 : 18 名

【九州・沖縄ブロック懇談会】

開催日 : 2月15日 (金)

場 所 : RITZ5 (リッツ5)

テーマ : 新規事業の取り組みについて (施設見学含む)

出席県 : 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、社団 (東京)

参加者 : 15 名

【中国・四国ブロック懇談会】

開催日 : 3月6日 (水)

場 所 : グランラッセレ広島

テーマ : 新規事業の取り組みについて (施設見学含む)

出席県 : 広島県、岡山県、鳥取県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県、社団 (東京)

参加者 : 14 名

【北海道・東北ブロック懇談会】

開催日 : 3月15日 (金)

場 所 : サンパレス福島

テーマ : 新規事業の取り組みについて (施設見学含む)

出席県 : 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、二本松市、社団 (東京)

参加者 : 12 名

(3) 各県組織総会等への出席

既存組織との連携強化を目的に、以下のとおり総会等へ出席した。

会合名	開催日	出席者
徳島県協力隊を育てる会総会	4月7日(土)	伊藤課長
宮城県青年海外協力隊を支援する会総会・講演会	5月12日(土)	松岡理事
富山県青年海外協力隊を育てる会総会	5月12日(土)	青木副会長
さいたま国際青年を育てる会総会	5月19日(土)	佐藤課長
青年海外協力隊とちぎ応援団総会	5月19日(土)	青木副会長
北海道青年海外協力隊を育てる会総会	5月19日(土)	足立会長
徳島県協力隊を育てる会役員会	5月19日(土)	足立会長
JICA 海外ボランティアひょうご応援団総会	5月26日(土)	青木副会長
茨城県青年海外協力隊を育てる会総会	5月27日(日)	奥永事務局長
福島県青年海外協力隊を支援する会総会	6月6日(水)	奥永事務局長
社団法人青年海外協力隊プラザ・大阪総会	6月8日(金)	奥永事務局長
愛知県青年海外協力隊を支援する会総会	6月9日(土)	奥永事務局長
福井県青年海外協力隊等を支援する会総会・講演会	6月16日(土)	奥永事務局長
にいがた青年海外協力隊を育てる会総会・講演会	6月17日(日)	青木副会長
岐阜県青年海外協力隊を支援する会総会	6月17日(日)	足立会長
広島県青年海外協力隊を育てる会総会	6月18日(月)	足立会長
埼玉県平成24年度1次隊壮行会	6月19日(火)	伊藤課長
千葉県海外協力隊を育てる会総会	6月23日(土)	大石課長
宮崎県青年海外協力隊を支援する会総会	6月30日(土)	青木副会長
島根県青年海外協力隊を育てる会総会	7月4日(水)	足立会長
愛媛県青年海外協力隊を育てる会総会	7月20日(金)	足立会長
埼玉県平成24年度2次隊壮行会	9月21日(金)	佐藤課長
鳥取県ボランティア家族連絡会	11月16日(金)	伊藤課長
協力隊を支援するやまがた地球家族の会 ～グローバル人材と JICA ボランティア活用を考えるフォーラム～	11月19日(月)	足立会長
千葉県ボランティア家族連絡会	12月16日(日)	大石課長
埼玉県平成24年度3次隊壮行会	12月18日(火)	伊藤課長
静岡県 JICA ボランティア家族連絡会	2月17日(日)	奥永事務局長
埼玉県平成24年度4次隊壮行会	2月22日(金)	佐藤課長

(4) 育てる会バッジの作製

育てる会のロゴマークをモチーフにしたピンバッジを作製、全国育てる会組織に配布するとともに会員や支援者に販売した。

作製個数：1,000 個

販売価格：1 個 500 円

販売個数：250 個

(5) 各県組織の主な変更

【会長の交代】

組織名 : 鹿児島県青年海外協力隊を支援する会
交代日 : 6月28日(木)
退任 : 井上晃男氏(鹿児島大学名誉教授)
新任 : 衛藤威臣氏(鹿児島大学名誉教授)

【役職名の変更】

組織名 : JICA 海外ボランティアひょうご応援団
変更日 : 5月26日(土)
変更前 : 前林和男氏(神戸学院大学教授) 運営委員長
変更後 : 前林和男氏(神戸学院大学教授) 理事長

(6) 平成24年度全国育てる会代表者会議

協力隊事業に関する情報共有と全国組織としての連携強化を図ることを目的に、以下のとおり代表者会議を開催した。

開催日 : 11月9日(金)
場所 : アジュール竹芝(東京都港区)
参加者 : 42組織の代表者および関係者61名

【JICA 講演①】

テーマ : 「最近の JICA の動向～海外支援を通じた日本力の強化～」
講師 : 黒川恒男氏(独立行政法人国際協力機構理事)

【JICA 講演②】

テーマ : 「JICA ボランティアの現況について」
講師 : 武下悌治氏(独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局長)

【シニアボランティア帰国報告】

テーマ : 「途上国における特別支援教育について」
講師 : 林賢三氏(びわ湖 JICA ボランティア応援団事務局長)

【意見交換】

テーマ : 「育てる会の新規事業展開について」

【オプションツアー】

実施日 : 11月10日(土)～11日(日)
場所 : JICA 駒ヶ根訓練所
内容 : 「JICA ボランティア派遣前訓練視察」
参加者 : 各県組織より20名

2. 会員の拡大

(1) 会員の状況

	平成 24 年 (3 月 31 日)	平成 25 年 3 月 31 日現在			
		入会	退会	合計	目標数
個人	884 名	71 名	165 名	790 名	1,100 名
法人	41 法人	5 法人	13 法人	33 法人	45 法人
団体	97 団体	4 団体	1 団体	100 団体	120 団体

※社団を含む全国育てる会の会員総数は 4,232 会員（個人・法人・団体含む）

【入会率推移】

➤個人会員

隊員派遣数減少の影響もあって隊員家族の入会者数が伸びず、目標数を大きく割り込んだ。

➤法人会員

新規入会数は 5 法人と大きく伸びたが、会費滞納会員等を整理したため総数は減になった。

➤団体会員

国際協力関係の学部を有する大学等 106 校の図書館に文書で購読依頼を行った結果、微増した。

3. 青年海外協力隊の理解促進

(1) 開発教育全国集会

各県組織と連携し、協力隊事業を通じて一般市民に国際協力への理解を普及させることを目的に、以下のとおり開催した。

開催日 : 6 月 30 日 (土)

開催名 : 第 22 回開発教育全国集会 in 富山

テーマ : 「富山発!! 地域ルネッサンスー地域が日本を変える」

主 催 : 富山県青年海外協力隊を育てる会、社団法人協力隊を育てる会

場 所 : 富山大学理学部 1 号館

参加者 : 110 名

【基調講演①】

テーマ : 「高島平に未来はない」

講 師 : 堀口吉四孝氏 (高島平総研代表) / 石田ゆかり氏 (膝楽体操代表)

【基調講演②】

テーマ : 「NPO が社会を変える」

講 師 : 惣万佳代子氏 (NPO 法人このゆびと一まれ理事長)

【事例報告】

テーマ : 「越中式定置網を世界へ」

講師：濱谷忠氏（氷見地区小型定置網協議会会長）

【パネルディスカッション】

コーディネーター：白山肇（富山県青年海外協力隊を育てる会会長）

テーマ：「青年海外協力隊の経験を地域に生かす：地域おこしの取組事例」

講師：小島路生氏（富山県／立山町地域おこし協力隊／グアテマラ OB）

中川博司氏（富山県／NPO 法人このゆびとーまれ／インドネシア OB）

村上成人氏（石川県／石川県家畜保健衛生所／ネパール OB）

藤井和代氏（福井県／カメハメハ大農場／タンザニア OG）

（2）協力隊活動現地視察の旅

隊員家族、関係者等を中心に隊員の活動現場を直接視察していただき、協力隊事業の理解者を増やし支援の輪を広げることを目指し実施した。

	平成 23 年度	平成 24 年度	目 標
企 画	48 カ国	59 カ国	
実 施	20 カ国	14 カ国	25 カ国
参加者	113 名	93 名	200 名

【参加者率推移】

隊員数の減少、一時帰国制度導入等により参加者数が減少したが、参加率と収益は昨年並みを維持した。

➤平成 23 年度：7.7%（参加者 113 名／案内送付 1,461 家族）

➤平成 24 年度：7%（参加者 93 名／案内送付 1,331 家族）

（3）スタディツアー

全国の育てる会の役員、会員、協力隊事業に関心のある方々に参加いただき、協力隊事業や途上国への理解を深め支援の輪を広めるために実施。5名の隊員の活動視察および懇親会を行った。ビレッジツアー等の育てる会ならではの企画を盛り込むことで、参加者の満足度は高いものとなった。

訪問国：インドネシア

開催日：2月17日（日）～24日（日）

参加者：19名＋添乗員1名

（4）協力隊を育てる会ニュース

全国の支援者に育てる会の活動や役割を伝えるとともに、支援者や関係組織からの情報を掲載することで相互の連携を図ることを目的に毎月発行した。隊員家族や派遣中の隊員に向けての情報としては、帰国後の活動や進学等の進路に関する情報を提供した。

発行部数：10,000部／毎月

仕様：モノクロ／タブロイド版／4ページ

【平成 24 年度の実施方針】

- 隊員ならびに隊員家族向け情報の強化
- ・ 帰国後の活動や進学等の進路に関する情報を積極的に掲載した。
- 県組織の情報掲載の強化
 - ・ 各県組織の様々な取り組みを積極的に掲載した。

月号	国際協力時評	主な記事
4 月	黒岩春地氏（佐賀県経営支援本部長）	佐賀県庁採用の OB/OG 特集
5 月	富樫千之氏（宮城大学教授）	千葉県育てる会訓練所視察
6 月	第 37 回通常総会／報告会「東日本大震災の被災地から」	
7 月	開発教育全国集会 in 富山「富山発!! 地域ルネッサンスー地域が日本を変える」	
8 月	旭信昭氏（若狭湾エネルギー研究センター理事長）	東日本大震災「小さなハート基金」
9 月	衛藤威臣氏（鹿児島県支援する会会長）	和歌山県育てる会設立準備会発足
10 月	寺坂智昭氏（福井県支援する会事務局長）	JICA 理事長表彰
11 月	板本洋子氏（全国地域結婚支援センター）	家族交流会、「小さなハート基金」
12 月	全国育てる会代表者会議	
1 月	新春特別対談：黒川恒男氏（JICA 理事）・足立房夫（社団法人会長）	
2 月	白山肇氏（富山県育てる会会長）	新春の集い
号外	新春特別講演：大竹美喜氏（アメリカンファミリー生命保険会社最高顧問）	
3 月	近藤繁彦氏（石川県立金沢二水高校校長）	JICA ボランティア募集

【広告料収入推移】

広告主数に大きな変化はないが、経済状況等の影響により 1 社当たりの広告掲載数が減少したため、収入も減少した。

	平成 23 年度	平成 24 年度	目 標
収 入	5, 210, 100 円	4, 045, 159 円	5, 000, 000 円

(5) Web ページのリニューアル

各コンテンツの見やすさと魅力を向上させるとともに、ユーザーにとって重要な情報を得やすいようユーザビリティを向上させ、全面的にリニューアルした。

変更点：隊員向け、隊員家族向け、企業・団体向け等、関心層に合ったコンテンツ作り

公 開：平成 25 年 2 月末より

(6) 協力隊を育てる会カレンダー

協力隊事業の理解普及を目的に、以下のとおり作製・販売を行った。

テーマ：「明日へのちから」

写 真：応募作品から 5 地域に分けて月別写真を選定

作製部数：15,000 部（名入れ版：10,000 部、断裁版：5,000 部）

販売価格：1 部 1,000 円（会員 700 円）／3 部以上購入は 1 部 500 円

販売総額：5,260,060円

種別	制作部数	販売先	販売部数	売上金額
断裁版	5,000部	会員	1,445部	686,400円
		一般	2,841部	897,800円
		広報用	714部	0円
社団 名入れ版	600部	会員	238部	114,000円
		一般	178部	89,000円
		広報用	184部	0円
一般 名入れ版	9,400部	各県組織	5,100部	1,840,000円
		企業等	3,779部	1,632,860円
		広報用	521部	0円
合 計			配布・販売 15,000部	販売総額 5,260,060円

(7) 東日本大震災の支援活動に取り組む帰国隊員の記録文集編纂

全国育てる会からの推薦者、クロスロード編集室の取材対象者より15名の帰国隊員に原稿執筆を依頼し、今後起こり得る自然災害時への提言集として編纂した。

誌名：「東日本大震災と青年海外協力隊～自然災害への備えと提言～」

執筆者：15名

体裁：A5版／112ページ

部数：3,000部

発行：一般社団法人協力隊を育てる会編著

定価：1部700円（税込）

発刊：平成25年4月30日（予定）

(8) イベントの開催

①「協力隊を育てる会家族交流会」の開催

派遣直後の隊員家族を対象に、現地JICA事務所や帰国後のサポート体制、「視察の旅」等の育てる会の活動を説明し、家族の抱える心配や疑問に答える機会を設けた。

開催日	会場	参加者数	テーマ
7月14日 (土)	JICA地球ひろば（広尾）	13名	聞いて見て知って JICAボランティア
10月20日 (土)	JICA横浜	18名	帰国後の進路は どうなっているの？
2月9日 (土)	JICA地球ひろば（市ヶ谷）	11名	今、日本に必要なこと

②「訓練所視察会」の開催

協力隊事業の理解普及を目的に、昨年度実施して好評を得た協力隊訓練所視察を継続して実施した。

開催日	開催場所／主催団体等	参加者数	プログラム

4月21日 (土) ～22日(日)	二本松訓練所 千葉県海外協力隊を育てる会	21名	語学訓練体験、訓練生との交流会、朝の集い、にほんまつ地球市民の会との意見交換会
8月31日 (金) ～9月1日 (土)	駒ヶ根訓練所 日本外国語専門学校	40名	語学訓練体験、特別講演(企業が求めるグローバル人材と協力隊)、訓練生との交流会、ワークショップ、朝の集い、伊那食品工業視察
11月10日 (土) ～11日(日)	駒ヶ根訓練所 育てる会全国代表者会議	20名	施設見学、語学訓練体験、隊員との意見交換・夕食、懇親会、光前寺視察

③国際協力等関係イベントへの参加

「グローバルフェスタ JAPAN2012」にブースを出展し、協力隊事業ならびに育てる会活動の広報としてカレンダー販売等を行った。

開催日 : 10月6日(土)～7日(日)

場 所 : 日比谷公園

④第6回チャリティゴルフ大会

「小さなハート基金チャリティゴルフ大会 in ぎふ美濃」を共催、チャリティオークションによる支援金は東日本大震災「小さなハート基金」に活用した。

開催日 : 11月26日(月)

場 所 : ぎふ美濃ゴルフ倶楽部

共 催 : 全日本自動車産業労働組合総連合会愛知地方協議会

参加者 : 103名

支援金 : 305,300円

⑤日本JC京都会議への参加

公益社団法人日本青年会議所主催の京都会議にブース出展し、協力隊事業ならびに育てる会活動の広報としてカレンダーをはじめ各種パンフレットを配布したほか、「小さなハート基金」の募金活動を行った。

実施日 : 1月19日(土)～20日(日)

場 所 : 国立京都国際会館

来場数 : 10,000名以上(延べ人数)

配布物 : 育てる会カレンダー500部、入会案内、「小さなハート基金」募集チラシ、クロスロード誌、育てる会ニュース、JICAパンフレット等

⑥新春の集い

「若者への期待」をテーマに、経済界の有識者による講演会と地域にて活躍中の帰国隊員による報告会を開催し、会員や支援者との交流を図った。

開催日 : 1月23日(水)

場 所 : ホテルグランドヒル市ヶ谷

参加者 : 第1部97名、第2部107名

【新春特別講演】

テーマ : 「今だからこそ求めるリーダーとは～若い世代への期待～」

講師 : 大竹美喜氏 (アメリカンファミリー生命保険会社最高顧問)

【帰国隊員報告会】

テーマ : 「草の根経験で地域の“ちから”を呼び覚ます」

講師 : 吉富有美氏 (廿日市地域支援員/フィジー・環境教育・平成20年度4次隊)

【交流会】

来賓 : 参議院議員・小川勝也氏 (民主党)、衆議院議員・竹下亘氏 (自民党)

衆議院議員・田沼隆志氏 (日本維新の会) が参加

4. 青年海外協力隊への支援拡大

(1) 小さなハートプロジェクト

途上国の人々の生活向上に寄与するだけでなく、青年海外協力隊を通して支援者と途上国の人々とを繋ぐことを目的に、隊員が本来の業務以外に企画するプロジェクトに対して支援金を募り、活動を支援した。

支援額 : 1件につき上限 300,000 円

支援総額 : 1,993,099 円

申請件数 : 8 件

選考結果 : 8 件

支援数 : 8 件

	氏名 職種 派遣国	出身 県名	支援 決定	プロジェクト名	支援額 (円)	支援者名
1	南裕子 村落開発普及員 ネパール	福岡	4/20	崖に面した小学校のグラウンドに柵と門の建設	270,174	宇佐美陽子 (個人)、 チャリティゴルフ 他
2	近藤裕子 村落開発普及員 カメルーン	岡山	6/22	幼稚園を知らない子ども達に学びの場を (幼稚園建設)	289,700	金沢二水高校、 岡山県育てる会他
3	篠崎道憲 理数科教師 タンザニア	富山	4/20	未来を夢見て勉強に励む生徒達に希望の灯りを!! (学校にソーラーシステム導入)	241,000	電力総連
4	藤岡美保子 村落開発普及員 セネガル	兵庫	10/16	ンディラ村小学校における水道とトイレの設置	125,306	ひょうご応援団他
5	上田美和 プログラムオフィサー カンボジア	島根	1/23	1270人の生徒のために衛生的なトイレを作ろう	294,513	島根県育てる会、 電力総連
6	伊藤真弓 行政サービス ガーナ	青森	12/26	太陽の力でコミュニティに健康を! (保健所にソーラーシステム導入)	300,000	青森県OB会他

7	松井佑樹 理数科教師 モザンビーク	愛知	1/23	ナマアシャ文化センター建設（音楽や舞踊等の民族文化保護）	300,000	愛知県支援する会、トキタ種苗（株）
8	石塚昌美 環境教育 インドネシア	兵庫	1/23	ハエの大量発生に苦悩する孤児院に救いの手を（コンポスト設置）	172,406	ひようご応援団、電力総連
支援総額					1,993,099円	

（2）帰国隊員/青年海外協力隊支援プロジェクト

協力隊経験を生かしながら、さらに広い国際的視野を持ち、実践力を身につけた国際協力分野の人材として帰国隊員を育成することを目的として、2分野に対して支援を行った。

助成団体：公益財団法人三菱UFJ国際財団

支援総額：2,700,000円

申請件数：25件（協力活動9件、調査研究16件）

選考結果：13件（協力活動5件、調査研究8件）

支援数：12件（調査研究1件辞退のため）

【選考委員会】

開催日：10月4日（木）

場所：JICA市ヶ谷

選考委員：青木副会長、島田理事、松岡理事、小川参与、杉下参与、武下悌治氏（独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局長）

多賀英明氏（公益財団法人三菱UFJ国際財団専務理事）

【協力活動分野への支援】

	氏名 職種 派遣国	活動地	プロジェクト内容	支援額 (円)
1	原田 千晶 村落開発普及員 パラグアイ	パラグアイ	鉄道歴史資料館で町おこし	260,000
2	大室 和也 理学療法士 ウズベキスタン	インド	南インドの地域在住障害児における理学療法の支援	240,000
3	石黒 承子 青少年活動 ネパール	ネパール	ネパール栄養改善プロジェクト	320,000
4	相馬 理香 村落開発普及員 フィリピン	フィリピン	ストリートチルドレン自立支援団体の本格始動および日本のサポーターとの異文化交流ワークキャンプ	500,000
5	山口 真司 コンピュータ技術 ガーナ	フィリピン	スラム街におけるPC再生施設建設とパイロット事業	300,000
支援額合計				1,620,000

【調査研究分野への支援】

	氏名 職種 派遣国	活動地	プロジェクト内容	支援額 (円)
1	藤村 廉 環境教育 ケニア	ケニア	半乾燥地における農耕民の生計戦略理解と「在来知」を活かした地域発展を考えるための基礎研究	120,000
2	今野 美保 エイズ対策 マダガスカル	マラウイ	ゾンバ地域における12歳児のう蝕、歯周疾患の要因となる生活習慣に関する調査	160,000
3	山平 芳美 体育 カンボジア	カンボジア	小学校体育としての保健科に関する教育的支援	140,000
4	天池 なほみ 看護師 モザンビーク	モザンビーク	クワレ県における下痢症の子供へのケアに関する検討—現地で使用されている“下痢”の認識に基づいて—	220,000
5	日達 真美 感染症対策 ニジェール	ニジェール	生後6ヶ月以内の子どもに対する授乳行動の決定要因に関する研究	220,000
6	笹村 はるか 日本語教師 中国	ミャンマー	途上国における日本語母語話者教師と非母語話者教師の協働に関する現地調査	90,000
7	新川 美佐絵 観光業 ウズベキスタン	ウズベキスタン	「アラル海周辺住民の想いと記憶継承について」インタビュー調査	130,000
支援額合計				1,080,000

(3) 馬場医療・福祉奨学金

医療・福祉分野への就職を希望する帰国隊員等に、返済義務を付して奨学金を支給した。

支援額 : 1件につき上限500,000円

支援総額 : 500,000円

申請件数 : 2件

選考結果 : 1件

支援数 : 1件

【選考委員会】

開催日 : 10月4日(木)

場所 : JICA市ヶ谷

選考委員 : 青木副会長、島田理事、松岡理事、小川参与、杉下参与、
武下悌治氏(独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局長)

	氏名 職種 派遣国	支援内容	支援額 (円)
1	加藤 真道 作業療法士 チリ	国際医療福祉大学大学院修士課程 福祉用具管理指導者領域における修学	500,000
支援総額			500,000

公益法人制度改革への対応

1. 一般社団法人移行認可の申請手続き

一般社団法人への移行認可を得るため、以下のとおり諸手続きを行った。

①新定款（案）の決議

実施日 : 5月24日（木）

場 所 : JICA 地球ひろば（広尾）

内 容 : 第37回通常総会にて法人移行後の新定款（案）を決議

②内閣府との打ち合わせ

実施日 : 7月9日（月）、9月12日（水）

場 所 : 内閣府公益法人認定等委員会事務局

内 容 : 移行申請書作成に関するレクチャー、事業および財務に関するヒアリング

③会計規程の一部改訂

実施日 : 9月24日（月）

場 所 : ホテルグランドヒル市ヶ谷

内 容 : 第3回理事会にて内閣府指導に伴い会計規程の一部改訂を決議

④申請

実施日 : 11月29日（木）

申請先 : 内閣府大臣官房公益法人行政担当室

実施方法 : Web 申請

⑤移行認可書の交付

交付日 : 平成25年3月27日（水）

交付元 : 内閣府大臣官房公益法人行政担当室

⑥一般社団法人への移行ならびに登記

移行日 : 平成25年4月1日（月）

財政基盤の強化

1. 新規受託事業の確保

JICA の公示案件に対し一般競争入札にて参加し、以下の業務を落札した。

案件名 : 「平成 24 年度～26 年度 JICA ボランティア事業広報記事作成に係る業務委託」

入札日 : 11 月 1 日 (木)

落札金額 : 3,750,000 円 (単価契約)

<特別活動>

東日本大震災「小さなハート基金」による支援活動

帰国隊員や全国の協力隊を育てる会(支援する会)が関係する、東日本大震災の被災地の復興活動に対して、支援者から寄付を募り活動資金の支援を行った。

支援額 : 1 件につき上限 300,000 円

支援総額 : 1,495,750 円

申請件数 : 5 件

選考結果 : 5 件

支援数 : 5 件

【支援金調達状況】

団体名	支援額(円)	備考
トキタ種苗株式会社	500,000	
全国の育てる会組織	70,000	計 4 組織
その他	633,585	個人会員、イベント等の寄付
小 計	1,203,585	(目標 2,000,000 円)
前年度繰越金	421,111	
合 計	1,624,696	

【支援結果】

	申請者	所属	支援内容	支援額(円)
1	森高康行	愛媛県青年海外協力隊を育てる会	南三陸の子どもたちと共に学ぶ集いの開催	300,000
2	梅原愛雄	岩手県青年海外協力隊を育てる会	仮設幼稚園園庭への砂場セット設置	295,750
3	細川光宜	青年海外協力隊広島県 OB 会 (パプアニューギニア OB)	気仙沼における漁業協同組合への養殖いかだ再生(2 回目)	300,000
4	仲田俊範	岡山県青年団協議会	岡山県在住青少年の復興支援を目的とした被災地派遣	300,000
5	芳賀正彦	NPO 法人吉里吉里国	立ち枯れた海岸林を有効利用するための発電機設置	300,000

支援額合計	1,495,750
-------	-----------

<一般活動>

1. 組織の運営と強化

(1) 会議等の開催

①第37回通常総会

開催日 : 5月24日(木)

場 所 : JICA 地球ひろば(広尾)

【通常総会】

平成23年度事業・決算報告、平成24年度事業計画・収支予算、役員改選、定款の変更に関する議案を承認

【報告会】

「東日本大震災の被災地から」

テーマ①:「震災から1年～宮城県は今」

講 師 : 富樫千之氏(宮城大学教授/宮城県青年海外協力隊を支援する会副会長)

テーマ②:「東北に笑顔を～協力隊経験者だからこそできる支援活動」

講 師 : 河野真氏(杏林大学准教授/JOCVリハビリテーションネットワーク所属)

②理事会

【第1回理事会】

開催日 : 5月10日(木)

場 所 : JICA 地球ひろば(広尾)

【第2回理事会】

開催日 : 5月24日(木)

場 所 : JICA 地球ひろば(広尾)

【臨時理事会】

開催日 : 7月24日(火)

場 所 : JICA 地球ひろば(広尾)

【第3回理事会】

開催日 : 9月24日(月)

場 所 : ホテルグランドヒル市ヶ谷

【第4回理事会】

開催日 : 12月10日(月)

場 所 : YMCA アジアセンター

【第5回理事会】

開催日 : 3月27日(水)

場 所 : ホテルグランドヒル市ヶ谷

③常任理事会

開催日 : 原則として毎月第三水曜日

場 所 : JICA 地球ひろば(広尾) および JICA 市ヶ谷等

第1回 4月18日(水)、第2回 6月13日(水)、第3回 7月11日(水)、
第4回 9月19日(水)、第5回 10月17日(水)、第6回 11月14日(水)、
第7回 12月5日(水)、第8回 1月16日(水)、第9回 2月13日(水)、
第10回 3月13日(水)

④顧問・参与会議

開催日 : 10月17日(水)

場 所 : JICA 市ヶ谷

テーマ : 協力隊を育てる会の活動方針と自主財源の確保について

(2) 慶弔

【春の叙勲】

叙勲名 : 瑞宝重光章

受賞者 : 曾我直弘氏(びわ湖 JICA ボランティア応援団副会長)

【秋の叙勲】

叙勲名 : 瑞宝小綬章

受賞者 : 青木和男氏(長野県青年海外協力隊を育てる会理事)

【JICA 理事長表彰】

個人受賞 : 寺坂智昭氏(福井県青年海外協力隊等を支援する会事務局長)

団体受賞 : トキタ種苗株式会社(法人会員)

石川県立金沢二水高等学校(小さなハートプロジェクト支援者)

表彰式 : 10月3日(水)

場 所 : JICA 市ヶ谷

備 考 : 表彰式終了後、当会の主催にて「お祝いする会」を開催

【逝去】

故佐藤照男氏 宮城県青年海外協力隊を支援する会副会長(4月20日)

故中島國臣氏 埼玉国際青年海外協力隊を育てる会副会長（5月12日）

【小久保茂昭さんを送る会】

開催日 : 6月3日（日）
場 所 : 日本青年館中ホール
参加者 : 221名

【物故隊員献花式】

開催日 : 10月3日（水）
場 所 : JICA地球ひろば（広尾）

（3）人事

【採用】

橋本正隆（5月1日） 帰国隊員支援業務、臨時職員から嘱託職員に登用（2月28日退職）
宗像淳史（5月1日） 事務局内業務補助、臨時職員（9月19日退職）
岡本大夢（9月18日） 帰国隊員支援業務、臨時職員から嘱託職員に登用（3月31日退職）
藤澤礼香（2月8日） 帰国隊員支援業務、臨時職員

【退職】

江尻美奈子（4月30日） 帰国隊員支援業務、正職員
菊池威臣（6月30日） 支援・事業課、正職員
平野 衛（6月30日） 支援・事業課、正職員
中島 淳（6月30日） クロスロード編集室、嘱託職員

（4）その他

①顧問の辞任

氏 名 : 中根千枝氏（東京大学名誉教授）
辞任日 : 8月末

②事務所移転

移転日 : 7月23日（月）
旧住所 : 東京都渋谷区広尾4-2-24 JICA地球ひろば3階
新住所 : 東京都新宿区市谷本村町3-18 エムズビル4階
登記日 : 8月14日（火）

③会員管理システム改訂

実施日 : 平成25年4月15日（月）から運用（予定）

以上

社団法人協力隊を育てる会

貸借対照表

平成25年3月31日現在

科 目	(単位：円)		
	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
流動資産			
現金預金	33,815,397	42,777,452	△ 8,962,055
現 金	358,484	703,395	△ 344,911
普通預金	33,456,913	42,074,057	△ 8,617,144
未収金	24,984,370	34,573,117	△ 9,588,747
貯蔵品	91,100	82,068	9,032
立替金		144,942	△ 144,942
流動資産合計	58,890,867	77,577,579	△ 18,686,712
固定資産			
基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
特定資産			
奨学貸付引当資産	6,433,749	6,933,749	△ 500,000
特定資産合計	6,433,749	6,933,749	△ 500,000
その他固定資産			
建物付属設備	312,375		312,375
敷 金	806,000		806,000
奨学貸付金	1,334,041	1,066,251	267,790
その他固定資産合計	2,452,416	1,066,251	1,386,165
固定資産合計	28,886,165	28,000,000	886,165
資産合計	87,777,032	105,577,579	△ 17,800,547
II 負債の部			
流動負債			
未払金	1,945,254	4,400,357	△ 2,455,103
前受金	1,319,400	5,602,516	△ 4,283,116
預り金	966,591	2,973,526	△ 2,006,935
仮受金		10,000	△ 10,000
未払法人税等	1,825,000	2,889,800	△ 1,064,800
流動負債合計	6,056,245	15,876,199	△ 9,819,954
負債合計	6,056,245	15,876,199	△ 9,819,954
III 正味財産の部			
一般正味財産	81,720,787	89,701,380	△ 7,980,593
正味財産合計	81,720,787	89,701,380	△ 7,980,593
負債及び正味財産合計	87,777,032	105,577,579	△ 17,800,547

正味財産増減計算書総括表

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

	(単位：円)		
科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
経常収益			
基本財産運用益	19,090	17,848	1,242
受取入会金	147,000	112,000	35,000
受取会費	7,846,260	8,387,893	△ 541,633
事業収益	101,815,317	140,633,038	△ 38,817,721
受取補助金等	3,000,000	3,000,000	0
受取寄付金	7,618,802	4,527,877	3,090,925
雑収益	4,440,647	8,780	4,431,867
他会計からの繰入額	1,730,000		1,730,000
経常収益計	126,617,116	156,687,436	△ 30,070,320
経常費用			
事業費	109,395,870	103,340,793	6,055,077
管理費	21,646,839	47,072,934	△ 25,426,095
他会計への繰出額	1,730,000		1,730,000
経常費用計	132,772,709	150,413,727	△ 17,641,018
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 6,155,593	6,273,709	△ 12,429,302
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 6,155,593	6,273,709	△ 12,429,302
経常外増減の部			
経常外収益	0	0	0
経常外費用			
税引前当期一般正味財産増減額	△ 6,155,593	6,273,709	△ 12,429,302
法人税、住民税及び事業税	1,825,000	2,889,800	△ 1,064,800
当期一般正味財産増減額	△ 7,980,593	3,383,909	△ 11,364,502
一般正味財産期首残高	89,701,380	86,317,471	3,383,909
一般正味財産期末残高	81,720,787	89,701,380	△ 7,980,593
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	81,720,787	89,701,380	△ 7,980,593

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 会計方針
「公益法人会計基準」(平成20年12月1日 内閣府公益認定等委員会)を採用している。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法による原価法によっている。
- (3) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産 定率法によっている。
- (4) リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)				
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
奨学貸付引当資産	6,933,749	0	500,000	6,433,749
合 計	26,933,749	0	500,000	26,433,749

3. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)			
科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	367,500	55,125	312,375
合 計	367,500	55,125	312,375

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位：円)					
区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産	定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産	奨学貸付引当資産	6,933,749	0	500,000	6,433,749

財 産 目 録

平成25年3月31日現在

		(単位 : 円)	
科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	(33,815,397)		
手許現金	358,484		
りそな銀行東京公務部支店 0080376	17,693		
三井住友銀行広尾支店 0150450	2,599		
みずほ銀行広尾支店 1128217	1,698,599		
みずほ銀行青山支店 1186895	2,461,870		
みずほ銀行青山支店 1849711	638,531		
みずほ銀行青山支店 1874910	229,195		
みずほ銀行丸の内中央支店 1988855	5,000,000		
みずほ銀行丸の内中央支店 3255632	52,464		
みずほ銀行六本木支店 1072103	1,193,954		
三菱東京UFJ銀行新宿中央支店 0221619	4,451,269		
三菱東京UFJ銀行新宿中央支店 0490881	799,444		
三菱東京UFJ銀行新宿中央支店 5311561	5,280,234		
三菱東京UFJ銀行広尾支店 1326566	232,210		
ゆうちょ銀行総合口座 10160-54403361	2,393,408		
ゆうちょ銀行振替口座 00180-2-82617	3,240,357		
ゆうちょ銀行振替口座 00100-3-65547	364,729		
ゆうちょ銀行振替口座 00130-7-639309	1,838,488		
ゆうちょ銀行振替口座 00110-9-500059	3,561,869		
未収金	(24,984,370)		
広告収入 7件	604,800		
団体会費 1件	10,000		
カレンダー販売手数料 1件	50,000		
クロスロード販売手数料 1件	1,424		
会員管理手数料 4件	302,720		
クロスロード発送手数料収入23組織	2,326,760		
帰国隊員等支援受託収入立替金 国際協力機構	4,282,521		
編集業務受託収入立替金 国際協力機構	16,312,394		
クロスロード発送作業受託収入立替金 国際協力機構	229,961		
広報記事作成受託収入立替金 国際協力機構	863,790		
出版物等	(91,100)		
郵便切手	53,510		
「青年海外協力隊誕生から成熟へ」新版 9冊	10,395		
「海を越えるボランティア先生」 50冊	27,195		
流動資産合計		58,890,867	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金りそな銀行東京公務部支店 3067202	10,000,000		
定期預金三井住友銀行広尾支店 00044750	10,000,000		
基本財産合計	20,000,000		
(2) 特定資産			
奨学貸付引当資産 三菱東京UFJ銀行広尾支店1326566	6,433,749		
特定資産合計	6,433,749		
(3) その他固定資産			
建物付属設備	312,375		
敷金	806,000		
奨学貸付金	1,334,041		
その他固定資産合計	2,452,416		
固定資産合計		28,886,165	
資産合計		87,777,032	

収支計算書総括表

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

	(単位：円)		
科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 事業活動収支の部			
事業活動収入			
基本財産運用収入	0	19,090	△ 19,090
入会金収入	210,000	147,000	63,000
会費収入	8,715,000	7,846,260	868,740
事業収入	103,302,660	101,815,317	1,487,343
補助金等収入	3,000,000	3,000,000	0
寄付金収入	5,500,000	7,618,802	△ 2,118,802
雑収入	8,473,994	4,440,647	4,033,347
他会計からの繰入金収入	0	1,730,000	△ 1,730,000
事業活動収入計	129,201,654	126,617,116	2,584,538
事業活動支出			0
事業費支出	96,975,522	111,211,013	△ 14,235,491
管理費支出	32,226,132	21,610,603	10,615,529
事業活動支出計	129,201,654	132,821,616	△ 3,619,962
事業活動収支差額	0	△ 6,204,500	6,204,500
II 投資活動収支の部			
投資活動収入			
特定資産取崩収入	0	500,000	△ 500,000
奨学金貸与引当資産取崩収入		500,000	△ 500,000
奨学金貸付返還金収入		232,210	△ 232,210
投資活動収入計	0	732,210	△ 732,210
投資活動支出			
固定資産取得支出	0	867,500	△ 867,500
建物建設（購入）支出	0	367,500	△ 367,500
奨学金貸付金支出		500,000	△ 500,000
敷金・保証金支出	0	806,000	△ 806,000
敷金支出		806,000	△ 806,000
投資活動支出計	0	1,673,500	△ 1,673,500
投資活動収支差額	0	△ 941,290	941,290
III 財務活動収支の部			
財務活動収入			
他会計への繰入金支出	0	1,730,000	△ 1,730,000
財務活動支出計	0	1,730,000	△ 1,730,000
財務活動収支差額	0	△ 1,730,000	1,730,000
IV 予備費支出			
当期収支差額	0	△ 8,875,790	8,875,790
前期繰越収支差額	61,619,312	61,619,312	0
次期繰越収支差額	61,619,312	52,743,522	8,875,790

監事監査報告書

一般社団法人 協力隊を育てる会
代表理事 足立 房夫 様

私たちは、社団法人協力隊を育てる会の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの財産及び損益の状況並びに業務の執行状況について監査を行いました。

その結果、貸借対照表、正味財産増減計算書、附属明細書及び財産目録は当法人の財産及び損益の状況を適正に示しており、また理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

平成25年5月10日

一般社団法人 協力隊を育てる会

監事 中野義人 

監事 白石肇 

平成25年度事業計画

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

1976年に協力隊の応援団として発足した社団法人協力隊を育てる会は、これまで市民による協力隊事業への側面支援や、より多くの青年の協力隊参加を促す社会環境づくりに取り組んで参りました。

今日の日本社会において、グローバル人材の育成は急務だと言われています。協力隊経験で培った「世界の人々と共に生きる」という精神は、グローバル人材に必要とされる素養であり、協力隊事業はまさにそれを育成できる場であると確信いたします。

このような人材を育てて社会に輩出することが我々の任務であり、そのためには帰国隊員の進路支援や福利厚生を充実させていかなければなりません。それらの公益活動を支えるための資金確保が大きな課題です。

この4月1日、協力隊を育てる会は一般社団法人として新たなスタートを切りました。これを契機に、より自由な発想と「内から外へ」の姿勢を持って積極的に新規事業展開に取り組むことで新たなサポーターとしての会員を獲得し、応援団として支援の輪を広げて参ります。

① 育てる会全国ネットワークの完成

これまで私たちは47都道府県に育てる会組織を設立し、全国何処からでも隊員を応援する体制作りを進めて参りました。今年度は4月に和歌山県で44番目となる組織が設立、奈良県、京都府でも着実に設立の準備を進めております。会員ネットワークを更に充実させ、全国規模の一体化した活動を推進するために、残す静岡県、神奈川県においても準備を進め、全国ネットワーク完成の目途を立てる年といたします。

② 自由な発想で新しい事業に着手

一般社団法人への移行を済ませた当会は、本年を改革と挑戦の年と位置付け、自由な発想で新しい事業に挑戦し、今まで関係のなかった団体、企業、個人と積極的に関わり、当会の活動に対する大きな支援を得て育てる会の目指す社会の実現を訴えて参ります。

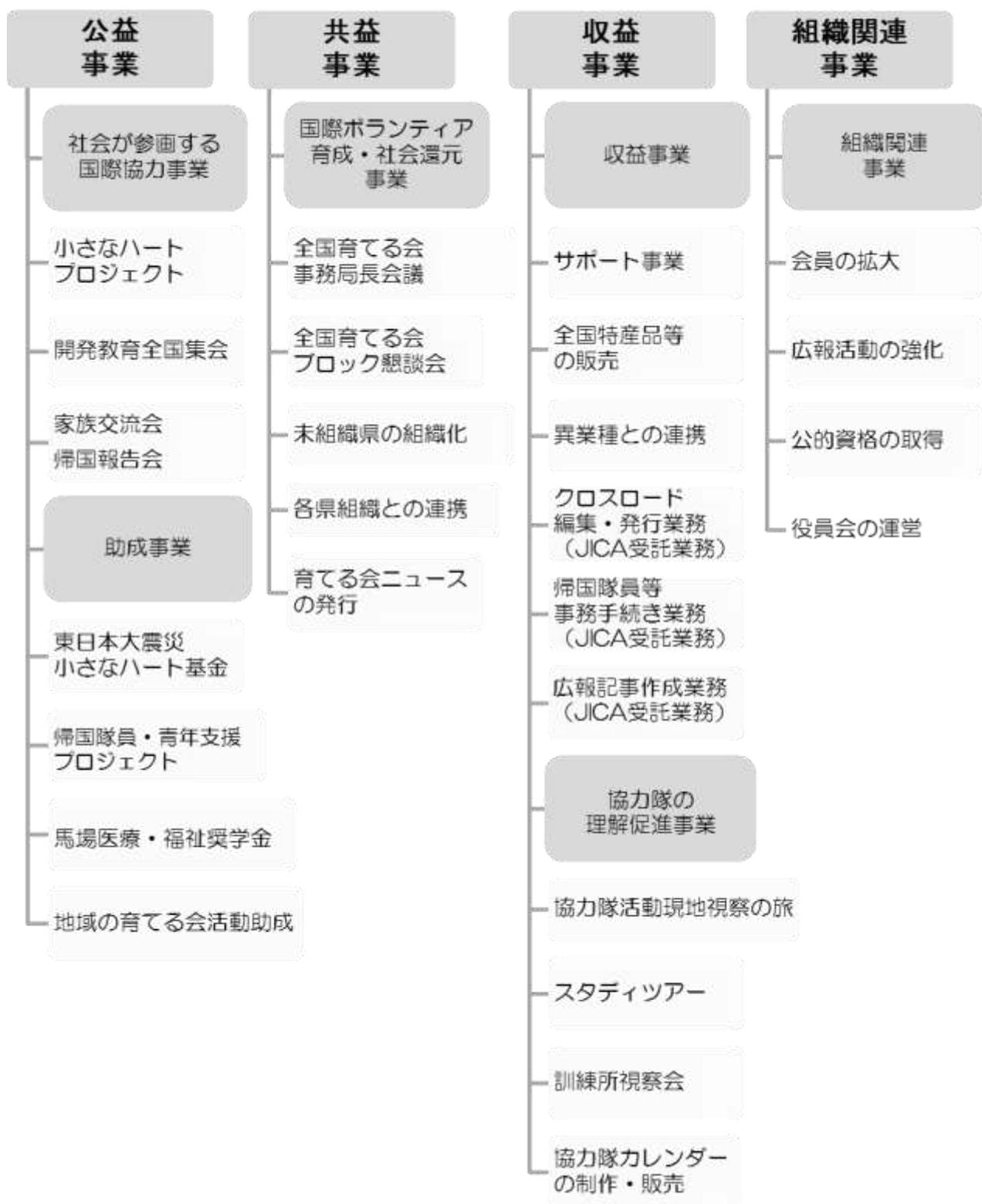
③ 効率的な事業運営

既存の活動においても、それぞれ公益・共益・収益・組織運営に分けて目的と関連性を確認し、効率的な運営を目指します。育てる会の特色を生かしたカレンダーの普及やスタディツアー、各種イベントを通して協力隊事業の一層の理解と支援を働きかけるとともに、小さなハートプロジェクト等の支援・助成事業も寄附金文化を醸成し実施いたします。

今、大きな変革を迎えようとしている私たちの活動は、会員はじめ、皆さまのお力添えがあってこそ大きな成果につながります。今後とも旧にも倍するご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

協力隊を育てる会の使命

青年海外協力隊をはじめとする国際ボランティア（以下「協力隊等」という。）事業
に
市民の立場から参加しやすい社会環境を創り、次世代を担う人材の創出及び育成を図
るとともに、協力隊等が得た経験を共有することで多様な価値観を尊重する平和で豊



公益事業

1. 社会が参画する国際協力事業

(1) 小さなハートプロジェクト

隊員が本来の業務以外に企画するプロジェクトに対して支援金を募り、活動を支援する。プロジェクト支援によって、途上国の人々の生活向上に寄与するだけでなく、青年海外協力隊を通して支援者と途上国の人々との繋がりを強め、国際協力に対する気運を高める。

募集期間：通年

支援金額：1件につき上限 300,000 円

支援目標：10 件

【実施方針】

➤申請の質の向上と申請数の増加

- ・訓練所ガイダンスの見直しやメール活用による隊員への周知強化
- ・申請書等の事務手続きの簡略化（支援までの時間短縮化）
- ・地域連携等ユニークな視点によるプロジェクトの広報強化

➤寄付文化の醸成

- ・各団体に対するファンドレイジング手法の提案
- ・隊員と支援者との交流強化
- ・異業種との関係構築

➤次世代の隊員育成

- ・学生等の若年層による支援ならびに参画促進

(2) 開発教育全国集会

全国育てる会のネットワークを活かし、協力隊事業を通じた国際理解と協力隊経験の社会還

元を広く一般の方に理解していただく場として開催する。

①第 23 回開発教育全国集会 in 青森

開催日：2013 年 8 月 10 日（土）

テーマ：「青森から地球を知ろう」

主催：地球色の日焼け・あおもり応援団、一般社団法人協力隊を育てる会

場所：青森水産ビル 7 階大会議室

内容：海面上昇により水没の危機に瀕しているツバル共和国の現状を通じて、日本の国際協力活動と地球温暖化問題を一般市民とともに考える。

【基調講演】

テーマ：「今ツバルで起きていること」（仮題）

講師：松館文子氏（ツバル海面上昇に対する生態工学的プロジェクトスタ

ッフ）

【ワークショップ】

「ツバルを形成する海洋生物を知ろう」（仮題）

【実施方針】

➤広報ならびに協賛確保のフォロー

- 外部事業助成の確保
- 児童・学生の参加促進

②第24回開発教育全国集会 in 東京

開催日 : 10月25日(金)

テーマ : 「東日本大震災と青年海外協力隊
～国際協力の経験から学ぶ自然災害への備え」(仮題)

主催 : 一般社団法人協力隊を育てる会

場所 : 東京都内(予定)

内容 : 東日本大震災復興支援に参加した協力隊経験者の活動を通じて、自然災害時にお

ける国際協力経験の活用について一般市民とともに考える

【基調講演】

テーマ : 「東日本大震災で起きたこと」(仮題)

講師 : 畠山卓也(元宮城県石巻市立北上中学校長、浦和学院高等学校特任センター長)

【シンポジウム】

テーマ : 「協力隊経験を如何に活かすべきか」(仮題)

講師 : 東日本復興支援に参加した帰国隊員

【実施方針】

- 異業種団体等による協賛確保
- 外部事業助成の確保
- 若年層・学生の参加促進

(3) 家族交流会・帰国報告会

協力隊事業の理解普及を目的に、隊員家族をはじめ参加希望者や学生、また市民団体等を対

象に帰国隊員の活動報告会を機会あるごとに企画、開催する。

①協力隊を育てる会「会員および家族交流会」の開催

主催 : 一般社団法人協力隊を育てる会

共催 : JICA 地球ひろば

開催日 : 8月3日(日)、11月16日(土)

開催回数 : 年2~3回程度

場所 : JICA 市ヶ谷

【実施方針】

- 隊員家族のみならず一般参加者の集客を強化
 - ・学生等の若年層
 - ・国際協力活動を行う市民団体
- 隊員の活動報告以外に途上国事情の提供等

②各種団体の会合における報告会の開催

【実施方針】

- 国際協力活動を行う各種団体の会合等での開催
 - ・ライオンズクラブ、ソロプチミスト等

- 人材育成や若者に関心のある各種団体の会合等での開催
 - ・自治体主催ならびに高齢者向けイベント等
- 隊員の活動報告以外に途上国事情の提供等

2. 助成事業

(1) 東日本大震災「小さなハート基金」

①支援活動

被災地で活動している帰国隊員、全国の育てる会（支援する会）や JICA 東北等からの情報に

基づいて、引き続き被災地の復興活動を支援するとともに、当初の活動期間の最終年度を迎え

ることから、活動全体の成果をとりまとめる。

実施期間：平成 23 年～25 年度（3 年間）

目 標：以下のとおり

繰越金	1,670,404円
資金調達目標	2,000,000円
総額	3,670,404円

②東日本大震災復興支援記録文集の配布・販売

協力隊経験の社会還元事例としてだけでなく、今後起こり得る自然災害時への提言として、全

国育てる会のネットワーク等を活かして本文集の普及を図る。

体 裁：A5 版／112 ページ

発行部数：3,000 部

定 価：1 部 700 円

③「小さなハート」チャリティゴルフの共催

日産労連、ぎふ美濃ゴルフ倶楽部とチャリティゴルフ大会を共同開催し、協力隊事業と当会活

動の理解普及を図るとともに、チャリティによる収益を「小さなハート基金」に活用する。

開催日：未定

場 所：ぎふ美濃ゴルフ倶楽部

(2) 帰国隊員・青年支援プロジェクト

公益財団法人三菱 UFJ 国際財団の支援をいただき、帰国隊員の国際協力活動等を支援する。

募集期間：7 月初旬～8 月下旬

支援金額：1 案件につき上限 500,000 円

支援総額：2,700,000 円

選考会：10 月（予定）

【実施方針】

- 申請の質の向上と申請数の増加

- ・ 訓練所ガイダンスの見直しやメール活用による隊員への周知強化
 - ・ 申請書等の事務手続きの簡略化（支援までの時間短縮化）
 - ・ 地域連携等ユニークな視点によるプロジェクトの広報強化
- 支援結果の追跡
- ・ 助成元に対する実施報告の充実
 - ・ 支援開始から5年目という節目を踏まえた支援プロジェクトの成果確認

(3) 馬場医療・福祉奨学金

医療・福祉分野への就職を希望する帰国隊員を対象とし、返済義務を付し支援する。

募集期間：7月初旬～8月下旬

支援金額：1名につき上限500,000円（原則2名まで）

支援総額：1,000,000円

選考会：10月（予定）

【実施方針】

- 申請の質の向上と申請数の増加
- ・ 訓練所ガイダンスの見直しやメール活用による派遣隊員への周知強化
 - ・ 申請書等の事務手続きの簡略化（支援までの時間短縮化）
- 返済金の進捗状況確認

(4) 地域の育てる会活動助成

各地域のボランティアによる育てる会活動に対し、活動助成金を給付する。

支援金額：1組織につき上限80,000円

給付時期：上半期中（予定）

対象事業：以下の3事業

- ① 協力隊に参加し易く、その経験を地域に活かす社会環境整備活動
- ② 協力隊事業の理解促進のための広報啓発活動
- ③ 「協力隊の応援団」を地域で増やす支援者拡充活動

共益事業

3. 国際ボランティア育成・社会還元事業

(1) 全国育てる会事務局長会議

育てる会活動における情報共有と連携強化を目的として、今年度は「開発教育全国集会 in 東

京」と併せて全国育てる会の事務局長会議を開催する。

開催日：10月26日（土）

会場：東京都内

参加組織：全国の育てる会組織ならびに未組織県設立支援者

(2) 全国育てる会ブロック懇談会

各県組織の活性化と連帯強化を目的として、今年度は「開発教育全国集会 in 青森」と併せて

北海道・東北ブロック懇談会を開催する。

幹事組織：地球色の日焼け・あおもり応援団

開催日：8月11日（日）

場所：青森市内

参加組織：北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県、二本松

市

(3) 未組織県の組織化

協力隊の応援団として全国から支援の声を発することができるよう、未組織の 4 府県（神奈川県、静岡県、京都府、奈良県）にて組織化を目指す。

【和歌山県にて新組織設立】

設立総会：4月9日（火）

場 所：ダイワロイネットホテル和歌山

組織名：わかやま JICA ボランティア応援団

概 要：全国で 44 番目の育てる会として設立

顧 問：仁坂吉伸氏（和歌山県知事）

会 長：檜畑直尚氏（公益財団法人和歌山県国際交流協会理事長）

副会長：山本健慈氏（国立大学法人和歌山大学学長）

事務局長：筒井 満氏（公益財団法人和歌山県国際交流協会常務理事）（ほか役

員 11 名

(4) 各県組織との連携

全国組織としての活動を更に活発化させるため、情報共有を更に充実させるとともに機会あるごとに事業連携を行う。

(5) 「協力隊を育てる会ニュース」の発行

全国の支援者に育てる会の活動や役割を伝えるとともに、育てる会を取り巻く関係組織や支援

者等の相互の連携を図る。また、ホームページとの相乗効果を図り、それぞれの利点を活かし

た広報を行う。

発行部数：10,000 部／毎月

仕 様：モノクロ／タブロイド版／4 ページ

【実施方針】

▶協力隊事業をはじめとする JICA 事業の掲載強化

▶各県組織活動紹介や地域の支援者の掲載強化

▶地域特産品や帰国隊員による物産品等の紹介

▶広告主の新規開拓

・帰国隊員の求める資格・検定等の実施機関

・グローバル人材募集企業（開発コンサルタント会社等）

収益事業

4. 収益事業

(1) サポート事業

職業紹介事業・労働者派遣事業の許認可を得て人材紹介事業を展開するとともに、株式会社全

国儀式サービスと提携し福利厚生サービスを提供、人生の様々な場面において帰国隊員の人生

を側面から支援する新たな事業を実施する。

公益事業を実施するための付帯収益事業の一つとして、まずは社団独自の事業として下記のと

おり展開する。

- 「サポート事業部」の新設
- 「サポート会員」の加入促進（年額 3,000 円）
- サポート会員へのサービス提供
 - ・ 人材紹介、人材派遣サービス
 - ・ ブライダルサービス
 - ・ レジャー&トラベルサービス
 - ・ 生活関連電話サービス
 - ・ 儀式支援サービス

【スケジュール】

- 定款の目的に「職業紹介事業」「労働者派遣事業」を加筆（5月24日、通常総会）
- 職業紹介事業、労働者派遣事業の事業申請（6月）
- サポート会員の入会勧誘を開始（6月）
- 初年度のサポート会員を登録（9月末、その後も随時入会を勧誘）
- 年内に職業紹介事業、労働者派遣事業認可

（2）全国特産品等の販売

全国組織としてのネットワークを活かし、各地域の限定品や帰国隊員による特産品等を育てる

会ニュースやホームページにて紹介するとともに、通信販売等を行う。

使用媒体：協力隊を育てる会ニュースならびにホームページ

販売時期：年2回（7月、11月）

（3）異業種との連携

様々な異業種の法人や団体と積極的に交流することにより、会員開拓や既存事業への支援・協

力を図るとともに、新たな分野での事業を開拓する際のパートナーとして、情報収集や事業連

携を行う。

【実施方針】

- 法人、団体との連携
 - ・ サポート会員の募集協力
 - ・ 新規支援者の紹介
 - ・ 応募促進、現職参加促進、帰国隊員の人材活用
- 大学、専門学校等教育機関との連携
 - ・ 訓練所視察会の開催
 - ・ 学内募集説明会の開催
- NPO/NGO との連携
 - ・ ジンバブエのダンスユニット「ジャナグル」の公演サポート
 - ・ グローバルフェスタ JAPAN2013 への参加

（4）受託事業

これまで培われてきた専門性を活かし、契約に基づいた業務を正確に遂行する。

①クロスロード編集・発行業務

委託元：独立行政法人国際協力機構

主な業務：年15号（増刊号3号含む）の編集・発行

契約期間：平成24年度～平成26年度

②JICA ボランティア帰国後事務手続き

委託元：独立行政法人国際協力機構

主な業務：教育訓練手当の給付業務、各種証明書発行等の各種事務手続き、進路相談カウン

セラー業務の補助等

契約期間：平成24年度～平成26年度

③広報記事作成業務

委託元：独立行政法人国際協力機構

主な業務：「サポーター宣言」をはじめとする協力隊事業の広報記事の取材・原稿執筆

契約期間：平成24年度～平成26年度

5. 協力隊の理解促進事業

(1) 協力隊活動現地視察の旅

隊員家族や関係者等を中心に隊員の活動現場を視察していただくことで、協力隊事業の理解者

を増やし支援の輪を広げるとともに、自主事業収入の中核と位置付け、財政基盤の安定化に繋げる。

【実施方針】

▶参加者増への取り組み

- ・親族や友人、上司、恩師等、両親以外の隊員関係者の参加促進

▶集客と広報の取り組み

- ・家族向け相談窓口としての確立
- ・入会案内時の広報
- ・ホームページの充実
- ・視察の旅に特化した交流会実施

▶他団体との連携

- ・旅行会社の集客力を活用し既存のツアーへの乗せ込み企画をトライアルで実

施

例) 旅行会社との連携による中南米やアフリカへのツアー実施

▶業務の効率化

- ・保険業務と旅行会社の役割の明確化

(2) スタディツアー

全国の育てる会の役員、会員、協力隊に関心がある若者等に参加を呼びかけ、隊員の活動を

視察し直接意見を交換することで、今後の支援の在り方についてともに考える機会を設ける

とともに、現地での体験から協力隊事業や途上国への理解を深める。

①主催ツアー

訪問国名：バングラデシュ（予定）

時 期：2月
日 程：1週間程度

②旅行会社との連携によるツアー

訪問国名：アフリカ2ヶ国（予定）
時 期：10～11月
日 程：10日間程度

③学生を対象とした研修ツアー

「山形県庄内町の中高生を対象とした研修ツアー」

訪問国名：タイ（予定）
時 期：8～9月
日 程：1週間程度

【実施方針】

➤NGOとの連携

・NGOによる現地アレンジなど現地に密着できるツアーの企画

➤異業種との連携

・旅行会社による私学教員対象ツアー
・地方自治体による教育プログラムツアー

（3）訓練所視察会

“訓練所から世界が見える” JICA の訪問プログラムを活用し各県組織及び教育機関、企業と共同で企画し他団体との連携を深めるとともに、訓練所のニーズにも対応すべく継続して実施する。また訓練所の視察だけでなく、地元企業と連携したイベント（工場視察、地元企業経営者の講演等）を盛り込み魅力を高める。

①駒ヶ根訓練所視察会

主 催：日本外国語専門学校国際関係学科
開催日：8月（予定）

②そのほか、看護等専門性の高い職種に関わる学校・学科への呼びかけを行い、2団体を目標に実施する。

（4）「協力隊を育てる会カレンダー」の作製・販売

隊員及び関係者から写真を提供いただき、途上国理解や協力隊事業の啓蒙普及を目的に作製・販売する。

テーマ：「子ども」

写 真：応募作品から5地域に分けて月別写真を選定

印刷部数：20,000部

販売価格：一般1,000円／会員700円／3部以上購入の場合は500円（予定）

組織関連事業

6. 組織関連事業

(1) 会員の拡大

全事業を通じて関わり合いを持った個人、団体、企業に積極的に働きかけを行うとともに、ホ

ームページやパンフレット等の広報媒体の見直しと充実を図り、入会促進を行う。

	平成24年度（3月末）の会員数	平成25年度（3月末）の目標数
個人会員	790名	900名
団体会員	100団体	150団体
法人会員	33法人	42法人

【実施方針】

➤個人会員

- ・ 隊員家族をはじめ交流会等の各種イベント参加者に対する働きかけ
- ・ 視察の旅、スタディツアー参加者に対する働きかけ
- ・ 事業連携や支援事業に関わる帰国隊員に対する働きかけ

➤団体会員

- ・ 事業連携や支援事業に関わる NGO/NPO 等に対する働きかけ
- ・ 事業連携や支援事業に関わる大学や研究機関、図書館に対する働きかけ

➤法人会員

- ・ グローバル人材募集企業に対する働きかけ
- ・ CSR 推進企業に対する働きかけ

➤管理体制の見直し

- ・ 新システムの導入による管理業務の効率化

(2) 広報活動の強化

事業全般を更に充実させるため、Web を活用した様々な取り組みを展開する。

①協力隊経験者によるショップ情報の収集と情報提供

【実施方針】

➤小規模ショップ事業主

- ・ 団体会員への加入ならびに広告掲載をパッケージとして販売

➤企業経営者

- ・ 法人会員への加入ならびに CSR の一環として当会への支援の働きかけ

②小さなハートプロジェクト等、他団体との連携事例の紹介

【実施方針】

➤支援者

- ・ 社会貢献活動の対外的アピール

③Facebook を活用した隊員情報の収集

【実施方針】

- 各県組織との情報共有
- カレンダー写真の募集
- 報告会の講師、視察の旅引率者の募集

(3) 公的資格の取得

新規事業の展開、コンプライアンス、リスク管理の面から以下の資格を取得する。

- ①職業紹介事業許認可の取得
定款変更の後、申請書提出、年内に取得予定
- ②人材派遣事業許認可の取得
定款変更の後、申請書提出、年内に取得予定
- ③プライバシーマークの更新
更新申請書提出の後、現地審査、年内に更新予定

(4) 役員会の運営

一般社団法人としての的確な組織運営ならびに事業活動を推進することを目的に、各種役員会議を開催する。

- ①第 38 回通常総会
開催日 : 5 月 24 日 (金)
場 所 : JICA 市ヶ谷
- ②理事会
年 4 回の開催 (5 月、9 月、12 月、3 月)
- ③常任理事会
原則として毎月開催
- ④委員会
支援・事業委員会、総務委員会を必要に応じて適宜開催
- ⑤顧問・参与会議
原則として年 2 回程度開催

【第 1 回】

- 開催日 : 6 月 6 日 (木)
場 所 : 東京都内

以上

